

＜コラム⑦＞林業と那賀川 ～木頭杉一本乗り～

旧木頭村に古くから伝わる丸太の一本乗りは、山で伐採した木材を木馬などを利用して川まで運び、そこから那賀川下流までの運搬方法として継承されたものです。丸太が岸边にあたって流れなくなったり、流れないで淀んでいたりする木材を、一本の丸太に乗って近づいて、流れるようにする命がけの仕事です。

木頭杉一本乗りも、昭和期に入ってから道路の発達とともに、水上運送から陸上運送にかわり、昭和20年代から30年代にかけての長安口ダムの建設により行われなくなりました。

現在では、一本乗り保存会が結成され、競技として毎年7月下旬に「木頭杉一本乗り大会」を那賀町木頭の南宇橋付近又は出原地区で行っています。